



Design

～地域包括ケア病棟から地域をデザインする～

発行元：地域包括ケア病棟“彩り”・リハビリ科・地域医療連携室

地域包括ケア病棟広報誌Design号外15号です。表面は、“彩り”で受け入れした事例と夏期休暇中の受け入れのご案内です。裏面は、老健やましろからのお知らせと看護の日健康フェスタの報告です。（地域医療連携室 室長 南出 弦）

地域包括ケア病棟“彩り”で受け入れした事例の紹介（第34回）

～ 父子の対話 ～

令和になる前、とある患者さんのお話です。主訴は腰痛でしたが、精査後、原発不明癌と多発骨転移がわかりました。長らく独居で健康に気を使ってきた本人を心配して、家族は告知を悩まされておられました。入院後は、体動痛からリハビリ継続困難で、ほぼ臥床したまま過ごされておられました。そのうち、せん妄が強くなりました。心理士は、認知症サポートチームと緩和ケアチーム両面で、本人とお会いする事としました。本人をたずねると「上海から出兵して日本に帰ってからは、正直に生きてきました」と話されました。「大切にされているものは何ですか？」と尋ねると「国民です」と答えられました。大きな手が印象的で、初対面なのに懐かしそうに話されました。難聴と見当識障害はあっても、芯は強く、意志を表せる人でした。記憶の煤（すす）を払うつもりで、日々ベッドサイドに訪問してお話を伺いました。このような場合は、自分を粉薬のようにして、短時間で頻度を多めに会うようにしています。文字通りの世話（せわ）で、世の中に一緒に暮らしている人として接するようにしています。

そのうち、本人が見舞いにきた家族に「毎日来てくれる人がいる」と伝えるようになりました。時機を捉えて、息子さんに「(病気について)話し合う時は、傍におります」と伝えました。ある夕方、息子さんが肚（はら）を決めて切り出しました。「オヤジ、あのな・・・」「・・・わかった」。全てを察したように、本人が人払いをされました。

病気の事、もう治らない事、痛みを取ってあげたい事、その為に転院を考えている事など、二人は訥々（とつとつ）と話し合いました。私は、初めて父子が出逢ったように感じました。息子さんが帰られ、本人は「もう十分な気持ちです」と安堵されて寝つかれました。その夜、せん妄は見られませんでした。後に、ホスピスに転院。しばらくして亡くなられたと伺いました。心の問題は、複雑な連立方程式を解くような作業ですが、一つ一つほぐしてゆければと思います。

（地域医療連携室 主任 臨床心理士 谷川 誠司）

夏期休暇中の受け入れのご案内

地域包括ケア病棟“彩り”では、夏期休暇のため、一時的に在宅医療が途切れる場合などに受け入れをさせて頂いております。お気軽にお問い合わせください。（中野・中嶋）

電話：0774-73-1818

老健やましろより

～ 次の目標に向かって ～

私は、現在の仕事に就く前、教育委員会で、6年間不登校の相談員をしていました。自宅から出られない子どもたちには家庭訪問を行い、一対一で関係性を気付くことから始め、不登校の子どもたちが通ってくる「適応指導教室」へ参加できるように支援します。そこでは、小学生から高校生までの子どもたちが同じ教室に通い、学年に関係なく好きなことをして過ごします。通い始めた頃は、他の子どもたちに馴染めず、1人でポツンと過ごしている子どもが多いのですが、ほとんどの子どもたちが徐々に他の子どもたちと交流できるようになります。その当時、まだ若かった私は、「子どもたちが楽しめる心地よい居場所を作ることが一番大切だ」と思っていました。

そんな時、当時の上司から言われた言葉が今でも心に残っています。『適応指導教室は、居心地の良い場所でなければならないけれど、居心地が良すぎてずっと居てもらってはいけない。適応指導教室に通うことがゴールではなく、この場所では物足りないくらいになって、自分から学校や社会に出ようと思えるように支援しなければならない。』と…。

現在、私は、老健の支援相談員ですが、この言葉は、老健の仕事にも共通すると感じています。老健は、楽しく、居心地良く過ごしていただきながら、在宅復帰という次の目標に向かっていただく場所です。「家に帰りたい」との思いを持ち続けていただけるように支援することが大切であると思っています。

利用者様が退所される時、当施設では、職員が必ず施設の外まで出てお見送りをさせていただいています。元気に、笑顔で退所されていく利用者様を見ると、私たちも同じようにうれしくなります。これからも、1人でも多くの利用者様が元気に在宅復帰出来るよう、職員全員で支援していければと思います。(老健やましろ 管理部長 三村 裕子)



看護の日 健康フェスタの報告

～ ありがとうございます ～



5月11日(土)にガーデンモール木津川で看護の日 健康フェスタを開催致しました。昨年同様、約170名の方々にお越しいただきました。昨年は骨密度測定、血管年齢チェックの結果からサプリメントや食事内容についての質問も多かったため、今年は医師に加え薬剤師、管理栄養士に参加してもらい健康相談ブースを設けました。実際に薬剤師や管理栄養士の方へ相談されている方も多く見受けられました。地域住民の方々に看護・医療に触れ、また、自身の身体を知っていただく一つの機会になれば幸いです。



*

今後とも地域の皆さまに信頼される看護・医療を提供していきたいと思っております。足を運んでくださった皆さまありがとうございました。

(看護師 多治川・中谷)